

横浜市中央卸売市場 会計運営計画の振り返りについて

1 会計運営計画とは

特別会計の健全化のために、「横浜市中期4か年計画」で、会計ごとの策定が定められています。現行計画の期間は、令和2年度から令和5年度までの4年間となっており、令和5年度で計画が最終年度を迎えるため、これまでの主な実績について報告します。

2 収支実績（決算ベース）

(1) 本場（中央卸売市場費会計）

（単位：百万円）

区 分	年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
					(予算)
歳 入 (A)	歳 入 (A)	2,885	2,865	4,245	5,620
	使用料及び手数料	1,411	1,425	1,422	1,474
	県 支 出 金	0	13	292	457
	財 産 取 入	577	577	577	577
	諸 収 入	313	250	378	522
	市 債	423	538	1,364	2,433
	一般会計繰入金	162	63	212	158
	歳 出 (B)	2,714	2,848	4,150	5,807
歳 出 (B)	運 営 費	2,057	1,965	2,152	2,454
	施 設 整 備 費	442	565	1,667	2,913
	公 債 費	215	317	331	439
	予 備 費	0	0	0	2
前年度からの繰越金 (C)	479	650	668	187	
前年度繰上充用金 (D)	0	0	0	0	
形式収支 (A-B+C-D=E)	650	668	764	0	
翌年度へ繰り越すべき財源 (F)	0	0	0	0	
実質収支 (E-F)	650	668	764	0	

(2) 食肉市場（中央と畜場費会計）

（単位：百万円）

区 分	年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
					(予算)
歳 入 (A)	歳 入 (A)	4,897	3,370	3,286	3,746
	使用料及び手数料	181	196	221	240
	県 支 出 金	0	0	0	0
	財 産 取 入	0	0	0	0
	諸 収 入	730	467	371	476
	市 債	1,721	190	359	556
	一般会計繰入金	2,265	2,517	2,334	2,473
	歳 出 (B)	4,773	3,270	3,436	3,746
歳 出 (B)	運 営 費	2,633	2,645	2,562	2,650
	施 設 整 備 費	1,723	206	385	568
	公 債 費	417	418	489	527
	予 備 費	0	0	0	1
前年度からの繰越金 (C)	16	140	241	0	
前年度繰上充用金 (D)	0	0	0	0	
形式収支 (A-B+C-D=E)	140	241	91	0	
翌年度へ繰り越すべき財源 (F)	0	0	0	0	
実質収支 (E-F)	140	241	91	0	

3 振り返り

(1) 投資について

【本場】

- 令和2年度から屋内荷捌場や冷蔵施設など、青果部に新たに3棟の施設整備を進めています。
- 新型コロナウイルス感染症やウクライナ侵攻による物流の停滞、物価・エネルギー価格の高騰、半導体の供給不足などを起因とする、工期延長や建設費上昇などの影響を受けていますが、令和4年度末には1棟が完成し、令和5年度から2棟目の整備に着手しました。

【食肉市場】

- 令和2年度に、老朽化した受電設備を、東日本大震災以降に改訂された建築設備耐震設計・施工指針に準拠したものに更新しました。また、老朽化した監視装置設備も更新し、災害時の電力供給の安定化及び耐震に関する安全対策を向上させました。
- 小動物（豚）解体ラインの更新については、令和4年度に基本設計を実施し、令和5年度は実施設計に着手しました。

(2) 財源について

【本場】

- 令和4年度に、青果部の卸売業者2社のうち1社が業務を終了したことにより、使用料収入が減少するなどの影響が出ています。

- 青果部活性化事業では、市債や国補助金（県支出金）を活用するとともに、施設整備にかかる償還財源を確保するため、令和5年度から新施設の仮供用に合わせ、使用料の徴収を開始しました。

- 照明設備のLED化や外壁改修など、施設の長寿命化にあたっては、一般会計からの繰り入れにより工事を実施しています。

【食肉市場】

- 受電設備の更新や空調設備の改修等では、市債を活用し、施設整備に必要な事業費を確保しました。

- 積極的な集荷や新規仲卸業者の誘致により、令和4年度に仲卸業者1社が入居し、使用料が増加しましたが、特定財源だけでは市場運営が困難なため、一般会計からの繰り入れを行っています。

(3) 投資以外の経費について

【本場】

- 仲卸業者等の販路拡大や経営効率化を支援するため、設備投資等への補助や見本市・商談会、研修会や専門アドバイザーの派遣などを実施しました。

- 市場の認知度を高め、市場取引の拡大につなげるため、市場食材を活用した「食」をテーマとするマルシェ等のイベントや量販店・ホテル等と連携した市場フェアなどを開催しました。

【食肉市場】

- 牛枝肉共励会の地方別フェアを実施し、新たな出荷者の確保に取り組むなど、積極的な集荷に取り組みました。

- HACCPシステムの全面的な導入を行うことで、詳細な衛生管理項目を定め、日々点検を行うことにより、品質管理水準の向上を図りました。

4 今後の方向性について

市場間競争の激化や市場外流通の増加、昨今の物価・エネルギー価格の高騰、物流の2024年問題への対応など、市場を取り巻く環境は依然として厳しさを増しており、先行きは不透明な状況です。加えて、施設の老朽化も進行しており、今後の市場運営には一層の注意が必要です。

そうした中、市民へ安全・安心な生鮮食料品を安定的に供給するため、計画的な施設整備や老朽化対策、品質・衛生管理の向上や場内物流の効率化、実需者や市場関係者のニーズを捉えた戦略的な集荷・販売力の強化等を推進し、引き続き適正な市場運営と機能強化に取り組めます。

また、会計の健全化のため、市債を活用した投資の平準化や使用料の見直しなど、持続可能な市場運営について、引き続き検討します。

5 新たな会計運営計画について

計画期間は、横浜市中央卸売市場経営展望（令和2年度～令和11年度）に合わせ、令和6年度から令和11年度までとします。

計画案については、次回の開設運営協議会で提示します。